



## 「HPE Aruba」で全社無線LAN基盤を刷新し つながりやすさとレスポンスを大幅に改善 創造性を加速する快適な業務環境を実現

ビジネスの創造性や生産性を高めていく上では、業務に必要な情報を社内のどこでも活用できる環境が欠かせない。ニュースアプリ「SmartNews」の運営を手がけるスマートニュース株式会社では、旧無線LAN環境で課題になっていた「スティッキー・クライアント」問題を解消すべく「HPE Aruba」を新たに導入。大容量コンテンツの閲覧・活用や、海外拠点とのビデオ会議などを快適に行える環境を実現している。

課題

- 全社業務を支える無線LAN基盤に接続性や性能低下などの問題が生じていた
- 運用管理に手間の掛からないシンプルな無線LAN環境を構築すること
- 今後のIT統制強化などの取り組みにも確実に寄与していくこと

成果

- Client Matchによる安定的な接続を実現。性能も最大約3倍に向上
- IAP (Instant AP) を採用し、コントローラレスでの無線LAN運用を実現
- ロールベースのアクセス制御やアプリケーションの通信制御が可能に



スマートニュース株式会社  
エンジニアリングマネージャー Site Reliability Engineering 担当  
尾形 暢俊 氏

### 先進ワークスタイルを支える 無線LAN基盤の改善が課題に

東京都・渋谷区に本社を置くスマートニュースは、「世界中の良質な情報を必要な人に送り届ける」を企業ミッションとして掲げる先進ICTサービス企業である。同社が運営するニュースアプリ「SmartNews」は、全世界2500万ダウンロード(2017年10月現在)を突破。情報に敏感なユーザーの生活やビジネスに欠かせないツールとして広く活用されている。

同社 エンジニアリングマネージャー Site Reliability Engineering担当の尾形 暢俊氏は「独自のアルゴリズムと人の判断を効果的に組み合わせることで、ユーザーの方々にとって最適なニュースをタイムリーに配信できるのが当社の強み。また、安定的なサービスをご提供できるよう、インフラの信頼性・可用性確保にも細心の注意を払っています」と語る。多くのメディア企業が同社とパートナーシップを組み、独自チャンネルの開設などを行っているのも、そのサービス品質の確かさの証と言える。

こうした同社の快進撃を支える上で、重要な役割を担っているのが、2015年2月に移転したスタイリッシュな新オフィスだ。「開発エンジニアの創造性を最大限に引き出せる空間」をコンセプトに設計されたこのオフィスには、デザ

インと機能性に優れた多彩な家具や什器類を設置。まるでインテリア会社のショールームのような印象すら受ける。オフィスの一角にはカフェやキッチンまで併設されており、疲れた時には一息入れてリフレッシュすることも可能だ。

「スタッフには自分用の固定席もありますが、フリーアドレス空間で仕事をすることもできます。このようにハイブリッド型の環境を用意することで、自由で柔軟な働き方が行えるようにしているのです」と尾形氏は説明する。

もっとも、このような先進的なワークスタイルは、有線LANケーブルに縛られる従来型の仕組みでは実現できない。そこで本オフィスは、最初から無線LANによる接続を前提として設計が行われている。そしてこの環境を使い続けるうちに、課題となる点も目につくようになっていたという。

「会社の成長に伴って人が増えたこともあり、無線LANの速度低下がしばしば生じるようになっていました。当社では、基本的にほぼ全ての業務が無線LAN経由で行われますので、このことは非常に大きな問題です。サンフランシスコやニューヨークの拠点とのビデオ会議などにも影響が生じていましたので、一刻も早く改善を図る必要があると考えました」と尾形氏は振り返る。

Profile



SmartNews

- スマートニュース株式会社
- 設立 2012年6月15日
- 所在地 〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前6-25-16
- URL <http://about.smartnews.com/>

スマートフォン、タブレット等のデバイス向けアプリケーション開発・運営、並びにインターネットサービスの開発・運営を手がける先進ICT企業。独自開発のニュースアプリ「SmartNews」は全世界2500万ダウンロードを達成しており、ユーザーやパートナー企業からも高い評価を獲得しています。

- ダウンロードページ
- App Store <https://goo.gl/1tB3aw>
- Google Play <https://goo.gl/LJmm8p>

## Client Matchを高く評価し HPE Arubaを新たに採用

海外大手ベンダーC社製の機器で構成された従来の無線LAN基盤は、新オフィスへの移転を機に導入されたもの。設置からまだ2年程度しか経っていなかったが、既に能力的な限界に達しつつあった。「その原因を確かめるために、まず既存環境の調査を行ってみました。すると、特定のアクセスポイント(AP)に接続が集中し、これが引き金となって通信が詰まっているように見えました」と尾形氏は説明する。

これは「スティッキー・クライアント」と呼ばれる問題の典型的な症状だ。複数のAPが設置された環境で無線LANを利用する場合、本来は端末の近くにある空いたAPに接続されることが望ましい。しかし、端末側にはこうした制御を行う機能が備わっていないため、いつまでも最初に接続したAPと通信しようと張り付いて(Sticky)しまう。これにより、無線LANのパフォーマンスが大きく下がってしまうのである。

同社では、こうした問題を解消すべく、ITパートナーである(株)エーピーコミュニケーションズと(株)ネットワークバリューコンポネンツ(NVC)に提案を依頼。その結果、新たに採用されたのが、NVCが提供する無線LANソリューション「HPE Aruba」だ。Aruba製品には、各端末とAPの接続状態を常時モニタリングし、最適なAPへの誘導を行うAP間負荷分散機能「Client Match」が備わっている。これを利用すれば、今回のようなスティッキー・クライアント問題を効果的に解消することができる。

「NVCにサイトサーベイを行ってもらったところ、事前の予想通り特定APに接続が偏っていることが裏付けられました。当社としても、実際に電波状況などを見るのは初めてだったので、非常に参考になりましたね」と尾形氏は語る。端末によっては、オフィスの端にある一番遠いAPに接続しているものもあったとのこと。もちろんClient Matchを適用すれば、このような事態が生じる心配はない。

加えて、もう一つ大きな決め手となったのが、Aruba独自のIAP(Instant AP)だ。これはAP内蔵の仮想コントローラを利用して、他のAPを自動制御する機能だ。物理コントローラを使用することなく、APだけで無線LAN環境を構築できる。

「運用管理の手間を軽減するためには、管理対象の機器ができるだけ少ない方がありがたい。そうした面でも、コントローラレスで利用できるArubaは大変魅力的でした。市場での導入実績も豊富ですので、新たな無線LAN基盤として導入することを決めました」と尾形氏は語る。

## 従来の約2～3倍に性能が向上 運用管理の効率化にも貢献

Arubaによる無線LAN基盤は、2017年7月より本番稼働を開始。540坪ほどのスペースには、高速接続を可能にする802.11ac wave 2対応の「HPE Aruba IAP-325」が11台設置されており、前述の通りInstantモードでの運用が行われている。導入も極めてスムーズで、事前に想定した時間よりも早く作業を終えられたとのこと。また、オフィスの美観を損ねることのないよう、設置場所などにも工夫が凝らされている。

これにより、同社の業務にも様々なメリットが生まれている。「まず一点目は、無線LANのパフォーマンスが、以前と比較して大幅に改善した点です。実際に計測してみたところ、平均的に約2倍、ピーク時には約3倍もの性能向上が図られています」と尾形氏は満足げに語る。これにより、北米拠点とのビデオ会議に支障が生じるといった従来の問題は完全に解消。開発部門や事務部門などの業務も、ストレスなく行えるようになった。

ちなみに同社オフィスには、社外の協力スタッフなども合わせて約130名が勤務。PCやスマートフォン、タブレット等の端末台数も、軽くその2倍以上に達している。旧環境の時代には、接続の安定性を確保するために、スマートフォンでの無線LAN利用を一時控えてもらったこともあったそうだが、現在ではこうした対応も



不要になっている。

さらに、運用管理の効率化にも大きく貢献。尾形氏は「Arubaの設定画面は非常に分かりやすく、直感的に操作が行えます。現在では、ほとんど何もすることなく運用できていますので、非常に手離れのいいソリューションという印象ですね」と語る。

なお、Arubaには、ユーザーの所属部門や役職などの役割に応じてアクセス制御を行う機能や、1500種類以上のアプリケーションの通信を認識・制御する「AppRF」などの機能も備わっている。こうしたものの活用についても、今後検討を進めていきたいとのこと。尾形氏は「最近ではIT統制の強化なども強く求められるようになっていきますので、当社でも必要に応じて利用していければ」と語る。

今回の導入を支援したNVCにも、大きな期待が寄せられている。尾形氏は「今回提案してもらったAruba製品に対する満足度は非常に高い。しかし、ネットワークのさらなる高信頼・高可用性化など、取り組むべき課題はまだまだ存在しますので、今後も環境改善に向けた前向きな提案を望みたいです」と述べた。

**NVC** NETWORK VALUE COMPONENTS

※記載されているシステム名、製品名社名などは各社の商標および登録商標です。

株式会社ネットワークバリューコンポネンツ

〒144-0035 東京都大田区南蒲田2-16-2 電話: 03-5714-2050 <http://www.nvc.co.jp/>